

## 現代医療批判 気管支喘息は治る

これまで松本先生に綴られた感謝と現代医療への批判のお手紙

「喘息」 浅岡 正幹 77 歳

（日本で1，2を争う有名私立大学の出身の方ですから、極めて頭の良い人です。ただし、現代医療の間違った気管支喘息の治療の犠牲者ですから、身をもって現代医療の悪を体験された方です。

医者は世界中のどの国でも最も頭の良い人になっているのですが、世界中の医者が口をそろえて、どうして気管支喘息は一生治らないと言い続けるのでしょうか？浅岡さんはこのよなとびきり頭の良い医者が行っている現代医療の批判を真っ向からやってくれました。

世間では頭の良い人、とりわけ医者は絶対に悪い事はしないという相場が決まっていますが、なぜそのような常識が生まれたのでしょうか？その秘密を解き明かしてあげましょう。まず子供達の社会生活は学校から始まります。学校で先生に叱られる人は、ほとんどが成績の悪い、つまり頭が良くないと思われる子供達です。成績の良い子供達は、成績の悪い子供にいじめられることはあっても、先生に叱られる事はめったにありません。中学生になり、高校生になると、ますます賢い子供は勉強に励み、悪い事をすると考えられている子供達はますます勉学から遠ざかっていきます。

最近のおぞましい殺人事件をご存知ですか。十八歳の子供が人望のある十三歳の子供に嫉妬して殺してしまったのです。嫉妬は、まさにエゴの悪の象徴ですね。嫉妬こそが他人のエゴを容赦なく奪い取る悪の情熱の根源であります。確かに18歳の子供は人を殺せば自分が死刑になるという可能性もあるということを、その瞬間知らずして、13歳の子供を殺してしまったのです。彼がもっと賢ければここまでのひどい罪を犯すことはなかったかもしれません。頭の悪い子は罰せられる悪を行うのですが、頭のずる賢い人は見えない悪をやるのが常ですから。この18歳の子供は高校を中退しております、一方13歳の子供は学校にいかなくなっていました。このような事件があるたびに、やはり先生のいう事を聞かない人、学校にいかない子供は悪いことをするというイメージができていっています。

さて、できる子は大学受験という子供にとって、日本の学歴社会においてもっとも大きな試練に直面せざるをえません。その中で最も優秀な子供達は医学部へと突き進んでいきます。

皆さんは、「優秀な学生が医学部に進学するのは医者になって病気を治すためだ」と思っておられるでしょうが、実はお金儲けのためなのです。なぜならば病気を治すのは病人の免疫でしかないのです。ところがこの真実を医学部の授業では、どんな教授も誰も教えないのです。しかも病気の治療として教えられることは、病気の治し方ではなく、製薬メーカーが作った免疫を抑える薬の投与のしかただけです。さらに医師国家試験においても、病気の作り方を知っているかどうかの試験ですから、ますます自分の病気は自分の免疫でしか治せないという真実を知らないで医者になってしまうのです。だからこそ、一般レベルの医者や開業医は死ぬまで病気を治すのは患者の免疫である事に気が付かないのです。

リーマンショック以来、日本は、歴史上最も優れた文明を営々と築いてきた中国の破竹の勢いに負けつつあります。中国は安い賃金の人海戦術で大量の製品を作り始め、世界中に中国製品を売りまくり、日本よりもはるかにお金を儲けだしたのです。もちろん中国が日本の全ての産業に優越したわけではないのですが、現在、日本は20年前のバブル期ほど儲ける事ができなくなり、全ての日本人は未来に不安を抱き始めました。そして、日本人の誰もが、未来において一番安定して金が儲かる職業は何かと考え始めたのです。あわよくば、人々から尊敬されるようになる職業は何かと考えれば、誰もがすぐわかるように医者となります。つまり、医者になる事こそ絶対安泰の道だということになったのです。さらに医者になれば、お金が儲かるとともに、お金より大事な命を救うことができるものとされているわけですから、日本で最も優秀な子供達は、東大、京大の医学部を筆頭として、他の国立大学医学部へと殺到していったのです。こうして、全国の医学部の入学試験の偏差値がうなぎ上りに高くなっていったのです。皆さん、毎年、有名大学の合格者を特集した週刊朝日やサンデー毎日の記事を読んだことがあるでしょう。医学部の合格者だけが特別枠にされ、医学部の合格者を出した6年一貫の進学校の学生の優秀さの記事が紙面を賑わせています。東大医学部合格者数上位の3羽ガラスは例のごとく、灘高等学校(15人)、開成高等学校(14人)、桜陰高等学校(9人)であり、京大医学部の合格者数は、第一位の灘高等学校が21人、洛南高等学校が15人、東大寺学園が9人となっています。東大や京大の医学部に合格することは、まさに自分の頭の良さを証明するエゴの快樂の機会ともなり、0.01点差で合格不合格が決まる恐ろしい世界となってしまいました。ついでに言えば、東大と京大の医学部の偏差値は、他の学部の偏差値と比べ10前後の大差が出るようになってしまいました。医学部だけが日本一の頭の良さを証明する学部となってしまったのです。

このような優秀な人たちが病気作りの最高峰に入ったところで、まったく意味がないことを合格者は知りません。ましてや医学には数学・物理はまったく必要がないので、化学はほんの少し必要ですが、とにかく理科系の才能はまっ

たく必要ではないことも合格者は誰も知りません。このような事実を医学部の教授は、皆知っているのにもかかわらず、なぜ医学部を理科系の学科にして、数学や物理や化学を必須にしているのか、私にはまったく理解できません。ただ、医学部の教授先生方は、頭の良い優秀な学生を集めて悦にいて、自分のナルシズムを満たしているだけとしか考えようがありません。病気を治すのは、生命 38 億年に進化した免疫の遺伝子しかないのにもかかわらず、であります。理科系の才能にあふれた医学部の合格者達は、その才能を病気作りにも、病気治しのいずれにも使う必要がないのに、最優秀の学生達が医学部に行く必要があるのでしょうか？まさに嘘をついて病気作りに専念することが医者の仕事となっているだけなのに（ワハハ）。つまり、一番頭の良い人達は、お金儲けのために知らずして嘘をついて、悪い事をしているという事に気がついていないのです。

私は、一番頭が良いという折り紙が付いている人が、実は一番悪い事をしているという事実を最近やっとわかるようになりました。70 になった年の功でしょうか？皆さん、エゴの快楽を最大限増やすことを可能にしてくれるのは何だと思いませんか？もちろんお金です。この意見に異論がある人は誰かおられますか？ユダヤ人だったら僕にハグしにくるでしょう（ワハハ）！なぜこんな悲しいことを言わざるをえないのでしょうか？それは人間の遺伝子は自分のためにしか使えないからです。人間が持って生まれた才能を発揮するのも自分自身のエゴのためです。エゴとはなんでしょうか？自分の遺伝子を最大限満足させることです。全ての自己のエゴ、自己の欲望を、自分の遺伝子の命令によって生まれる欲望を満たしてくれるのはお金です。資本主義社会においてはすべての人間はお金のために働き、お金のために悩み、お金のために喜んでいるだけの存在が人間なのです。人間、つまり人間のエゴは、お金の奴隷、快楽の奴隷なのです（ワハハ）。エゴがなくなる限りは、（つまりエゴは遺伝子によって、生まれるものですから人間が遺伝子をなくさない限り、言い換えると滅びない限り）人間は過去も未来も現在も永遠にお金の奴隷（快楽の奴隷）とならざるをえないのです。従って、頭の良い人こそお金を求めて、お金で世界を、つまり他の頭の悪い人間を支配できるのです。賢い人間は、18 歳の子供が 13 歳の子供を殺すような、そんな阿保な、むごい、ばれるようなことはしません。絶対にばれない、しかも他の頭の悪い人でも参加できる、というよりも気が付けば誰でもが参加できる、しかも罰せられることのない悪事をこっそりと悪知恵を使って行うだけです。それでは一つ質問を出しましょう。世界で最も頭の良い民族はご存じですね。誰でしょう自分で考えてください。ヒントを言いましょう。この瞬間でも現在の世界中を支配している人たちです。この最も賢い人達の真似を他の人もこぞって真似ているだけなのです（ワハハ）だからこそ、浅岡さんがテーマで書いてくれた現代医学批判というのは、とりもなおさず、最も頭の良い人に対する批判となるのです。（ワハハ）

さらに、テーマになっている気管支喘息は治るのですが、ちょっと詳しい気

管支喘息に書かれている本を読むと、「気管支喘息は一生治らない」と書かれています。現代医学は、日進月歩、秒進分歩で進んでいます。なのに、偉い医者たちは、どうして「未来まで気管支喘息は治らない」と、断言できるのでしょうか？この言葉の裏にはどのような意図があるのでしょうか。そこには、「治らないから何をしても良い」という免罪符と、「一時的に症状をとれば患者は満足する」という医者の思いが隠されているのです。私がこのようなホームページを作り、患者さん自身の免疫で治した手記を書いてもらっているのは、何のためでしょうか？それは、現代医学の医者達がお金を儲けるため、治る病気を治らないと言い続ける間違いを、患者さん自身の証拠をもって叩き潰したいと考えているからです。大言壮語を吐きましたが、こちらが先に叩き潰されるのも近いかもしれません（ワハハ）。

エールを送りましょう。全国の秀才の皆さんへ。勉強しなさい。医学部に入れば必ずお金は儲かります。国公立大学がだめなら、私立大学の医学部に入る努力を続けましょう。べらぼうに高い私立大学の学費も、医者になれば回収できます。そして、病気を作ることが許される国民皆保険が潰れるまで儲かる事を保証しましょう（ワハハ）

実際、職業別に稼ぎ高の順位を付ければ、一番稼ぎが多いのは医者であり、次に公認会計士であり、弁護士であるということを、皆さんご存知でしょう。

このような病気を治せない間違った国民皆保険システムがどうして維持できているのでしょうか？答えはいろいろありますが、高額医療費が補助され、医療費の7割が健康保険で補助されることが問題なのです。社会保険をなくして10割負担にすれば始めて医療に無知な大衆は、高額な医療費に辟易して医者に行かなくなるでしょう。もし行ったとしても、治らなければ間違った免疫を抑える医療に、遅かれ早かれサヨナラをするでしょう。つまり皮肉なことに社会保険が病気を作り続けているともいえるのです。社会保険がない昔の日本の医者達はお金をとらなくても診察したことが、しばしばありました。つまり、医は仁術だったのです。現代の医療は、100%算術であり、病気を治さなければ、治さないほど、お金が医療機関に入るといってもないシステムに成り下がったのです。結論から言うと病気を治さなくてもお金をとれるというのが現代の医療制度の間違いの本質であります。言い換えると病気を治してもらってから始めてお金を払うシステムにするべきです。こんなシステムは空想に過ぎないと思われる人もいるでしょう、しかし空想でもなんでもないので、現代の病気の原因は化学物質とヘルペスだけですから、必ず病気は治るのです。化学物質とIgEで戦えばアレルギーになり、IgGで戦えば膠原病になります。膠原病をアレルギーに変えて最後は免疫寛容を起こさせば化学物質と共存することができ、アレルギーも膠原病も全て治ってしまいます。一方、ヘルペスとの戦いは漢方で免疫を上げ、かつヘルペスが増えないように抗ヘルペス剤を投与すれば、最後はヘルペスを神経節に押し込むことができ、ヘルペスとの戦いから生まれる様々な症状は消えてしまい、ヘルペスによって起こされる病気は治

ります。もちろんヘルペスは死ぬまで神経節に閉じ込める必要があります。

2007年

松本先生お元気に御活躍のこと御慶び申し上げます。嘗ての私のように多くの喘息で苦しむ人々がすがりつける名医の存在が、全国に、そしてテレサテンが発作で死亡してしまった中国に、知れ渡りますことを切に望んでおります。家庭の医学のテレビ番組で、喘息と診断され、ステロイド治療で少しも良くならなかったと報道されていました。

(浅岡さん、名医はあなたご自身の免疫の遺伝子なのです。あえて私があなた  
の名医という言葉にふさわしい徳があるとすれば、あなたが名医であるという  
事を気がついた少しばかりの頭脳の良さと、この上もない私の正直さだけです。

真実というのは極めて単純です。前文に書いたように人間は何のために生きているのかというと自己の快樂のためだけであります。快樂が永遠に手に入れないどころか、苦痛で終わるとい事がわかった人は自殺するだけです。口では自殺すれば良いだけと言いますが、実際に実行することは極めて難しいのです。なぜならば、遺伝子には元来自殺を命じる遺伝子はないからです。遺伝子に逆らう事は最も難しい事なのです。その一番難しい事を朝から晩までやり続け、病気を作っているのが医者の仕事なのです。難しい事なので賢い医者の頭脳が必要なのです(ワハハ)。遺伝子というのは元来、遺伝子自身ができる限り生きつづけるためにあり、必ず人は老化により死ぬべき遺伝子を持っているので、生殖を通じて自分の命を次の遺伝子に渡すようになっているだけです。遺伝子によって営まれている生命自体には、元来何の意味もないのです。犬や猫は、大脳皮質が発達していないので、生きる意味などとは考えたこともないのです。人間だけは脳皮質を発達させたために、自分の生きる意味をこちゃこちゃと自分勝手に能書きを述べているだけです。人間の存在は特別な存在ではなくて、ただ単に大脳皮質を発達させた結果に過ぎないのです。このように生命さえも定義すれば簡単に定義できます。ただ、生まれて死ぬまでに時間を過ごさなければならないので、退屈をしのぐために、先ほど言ったような、こちゃこちゃとした能書き述べているだけなのです。

ただ、テレサ・テンさんは、まだまだ寿命があったのに、僕との出会いがなかったから早死にただけなのです(ワハハ)。ただ不思議に思うのは、テレサ・テンは台湾人です。当然に台湾にも漢方があるのに、なぜ漢方は免疫を上げて気管支喘息を治してくれたのに、その漢方の存在をなぜ知らなかったのかという疑問です。やはり台湾も日本と同じで、いたずらに西洋医学が中国医学よりも進んでいるとテレサ・テンさんは思い込んでいただけなのでしょう。医学には西洋医学も中国医学も台湾医学もあるわけではないのです。医学とは、人間の遺伝子に刻み込まれている免疫によって行われる絶対唯一の医学しかありません。つまり、全ての人間が生まれたときから平等に与えられている病気を治

す免疫の遺伝子だけがあらゆる病気を治してくれるのです。免疫の遺伝子が治せない病気は誰も治すことができません。果たして、そのような病気があるでしょうか？現代の文明においては何もないのです。

喘息は、様々な化学物質と結びついたタンパク質の複合体がアレルゲンとなり、それを排除しようとして、咳こみ、痰が出て、一方そのような複合アレルゲンを入れまいとして息が苦しくなるだけです。このような症状は全て正しいのです。皆さんもこんな簡単な真実をすぐに理解されるはずです。嫌なものが頭や体に入ってきたら、出そうとするでしょう。嫌なものが入ろうとしたときは入れまいとするでしょう。このような簡単な道理を現代の医者はまったく理解しておりません。先ほど述べたように医者は一番賢い人達ですから理解していないわけではありません。ただ、お金儲けのために、道理を捻じ曲げて、入れてはならないものを入れ続け、入ろうとする嫌なものを入れ続けて病気を作り続けているだけなのです。ところが、真実一路の免疫は不必要なものが再び入ってきた時に、また繰り返し咳込んで吐き出さそうとしますし、嫌な異物が入ってくる時には、入れまいとして気管を狭めることを繰り返しやるだけなのです。ところがテレサ・テンさんは、おそらく歌手ですから、大いに自由自在に呼吸をして歌う事が命です。アレルギー性気管支炎、つまり、気管支喘息が起り続けると、お金が稼げないので一時的にステロイドを投与されたのでしょうか。ところがステロイドは一時的に免疫の遺伝子の働きを抑えるだけですから、遺伝子の働きが再び復活すればリバウンドが出ます。このような誤った治療を繰り返していくうちに、どんどんリバウンドが激しくなり、テレサ・テンさんは、リバウンドの方が、ステロイドでリバウンドを抑制する力よりも強くなり、最後は4分以上リバウンドが続き、息ができなくなって死んでしまったのでしよう。)

先生から頂きました延命の間に東京で脳梗塞で病院センターに入院中、ダシのない不味い食事に日本を支えて来た高齢者が予想しなかった末期の食事を改善しようとして探究いたし、鯉、牛肉の旨味分子、

$C_{10}H_{13}N_4O_8P$  の有機化学合成の理論を構成いたしました。前回お薬お送り頂きました時、後期高齢者保険証福祉医療保険証コピーお送り申し上げましたが、看護婦さんの依頼で保険証コピーを再送付申し上げます。

(浅岡さんの最初の喘息のきっかけは、当院にこられる2年前の風邪でした。初診に検査したアレルゲンとしては、スギの花粉の持つタンパクと結びついたPM2.5(車の排気ガス)の複合体に対して、IgE抗体はアレルギーがない人の200倍ありました。さらに犬猫の上皮が運ぶアレルゲンに対して正常人の10倍以上もIgE抗体がありました。ハウスダストに対するIgE抗体も正常よりも高値でした。

風邪をひくと、風邪のウイルスは喉や気管支の粘膜の細胞に入り込みます。その後、キラーT細胞がウイルスを殺すために、その風邪のウイルスが侵入した細胞もろとも破壊します。風邪のウイルスがのどや気管支から退治されてしま

った後に、破壊された細胞の跡に傷が残ります。この傷にスギや犬猫の上皮がくっつくと、それらを排除しようとするために IgE とアレルゲンの戦いが始まります。それがアレルギー性気管支炎であり、巷に言われる気管支喘息であります。昔から天然の化学物質はハウスダストや犬猫の上皮に含まれていました。昔の人でも、生まれつきこれらの異物に対して IgE に作りやすい遺伝子を持っていた人たちは、気管支喘息を起こしていたのです。昔の人も現代の人も免疫の遺伝子は同じですからね。

2009 年

桜花柳の芽の緑混じって都や大和は今や春爛漫に包まれています。松本先生、御健勝に御活躍でございますか。PM2.5 の微粒子公害に喘息の人々への警告が報道されます今日、松本先生のお陰で健康な日々を送ることが出来ますこと松本先生に深く感謝申し上げます。東群大や関東の医院ではステロイドを骨粗鬆症の副作用を伝達することなく喘息患者に使用し、病状改善しておりません。天然植物・食物中の成分の効能を素直に探究することが大切と思います。(ルチン、カテキン等も)

(その通りです。天然植物は誰も自分を守ってくれないので、天然植物自身で身を守る免疫の成分を作らざるを得ません。植物は光合成によって、光エネルギーを栄養のエネルギーにまず変えます。それが3大栄養素と言われる、炭水化物と蛋白と脂肪であります。この3つから、さらに免疫の成分である様々のアルカロイドを作ります。外敵から自分を守りたい欲の強い植物は、食べられないために人間や動物を殺すことのできる強い毒素を作ることもあります。人間は毒を持つ植物を嫌いますが、植物にとっては嫌われる事が長生きの秘訣なのです(ワハハ)。私も医療業界最も憎まれている人間ですから、長生きが可能でしょうか？(ワハハ)先日も西アフリカ猖獗をきわめているエボラ出血熱ウイルスはご存じでしょう。このエボラに感染させたマウスに、ハーブのアルカロイドの一つであるテトランドリンを投与すると8割を救うことができ、一方、テトランドリンを投与しなかったマウスは死に絶えたと報道されていました。これだけ、はっきりした効果があるのだから、このハーブを煎じて目の前の死にかけているエボラ患者にすぐに飲ませれば良いのに、チンパンジーに投与して実験してから確認しようといっていると報道もされていました。治ってしまうと製薬会社がお金を儲けられなくなり困るからでしょう(ワハハ)。死ぬか生きるかの患者が目の前にいるのになぜそのような実験をする必要があるのでしょうか？悲しい話です。)

※テトランドリンについての最新情報を wikipedia よりコピペし、かつコメントをしながら一緒に勉強しましょう。)

テトランドリン (Tetrandrine) はビス-イソキノリン系のアルカロイドであり、カルシウムチャンネル阻害作用を持つ。又、肥満細胞の脱顆粒を抑制するので、抗アレルギー作用を持つ。(このテトランドリンは中国原産のシマハスノハカズラから抽出されるのです。まさに漢方ですね。漢方が免疫を上げてエボラ出血熱ウイルスの増殖を抑えたのです。漢方が素晴らしい唯一の免疫向上薬であることの証拠の一つです。肥満細胞は元来、殺しの世界である IgG の戦いに関わるのではなくて、排除の世界である IgE と結びついて、ヒスタミンを出し、痒みをもたらす働きをします。IgE の世界は、いわば、する必要のない戦いをやっているわけですから、始めから戦わない方が賢い戦略です。その意味で人間よりも植物の方が賢いですね (ワハハ)。その他、「キニジン様」の抗不整脈作用を持つ。シマハスノハカズラ (学名: *Stephania tetrandra* S Moore) から単離された他、中国や日本の草木に含まれている。血管拡張作用を持ち、血圧を低下させる。

テトランドリンは肝障害の治療や肝癌の治療に有用である可能性が有る。(肝障害も肝癌も元の原因は B 型肝炎ウイルスや、C 型肝炎ウイルスですから、ちょうどエボラ出血熱ウイルスの増殖を抑えることができるのと同様に、肝炎ウイルスの増殖も抑えるので、肝癌等の治療に有効なのです。) 緑内障の手術の一つである 線維柱帯切除術 施行後患者又は重度の 結膜炎 患者に対する 結膜の過剰な癒着・線維化 を予防出来ると期待される。(眼球に関する手術後は、傷の炎症を止めるために必ずステロイドを用います。しかも、緑内障はヘルペスウイルスによるものだと私は考えていますのでステロイドを用いると必ず眼球の神経に住み着いているヘルペスウイルスが増殖するので、テトランドリンは、このヘルペスウイルスにも効いているのです。したがって、今後ヘルペス治療をするときにシマハスノハカズラを漢方煎じ薬として使う事を考えております。) テトランドリン並びにその誘導体の抗炎症・抗線維化効果は、珪肺、肝硬変、関節リウマチ の治療に応用出来る可能性が有る。テトランドリンは *in vitro* (試験管内) で エボラウイルス の宿主細胞への侵入を阻止し、マウスを用いた初期研究でエボラ出血熱の治療効果を示した。

(ついでに緑内障の手術で用いられる 線維柱帯切除術 について、コピペしておきましょう。近いうちに緑内障についての大論文を書く予定ですからご期待ください。緑内障の手術は、点眼薬やレーザー治療の効果がなかったときに行われます。しかしながら緑内障の手術は、緑内障を治すための根治手術ではないので、やらない方がましなのです。手術後、緑内障がさらに悪化する人がしばしば見られることをも付け加えておきます。緑内障は決して眼圧が高いから起るのではなくてヘルペスによるものであることを強調しておきましょう。その論証をいずれ近いうちにやるつもりです。乞うご期待!!)

線維柱帯切除術 (せんいちゅうたいせつじょじゅつ) (トラベクレクトミー)

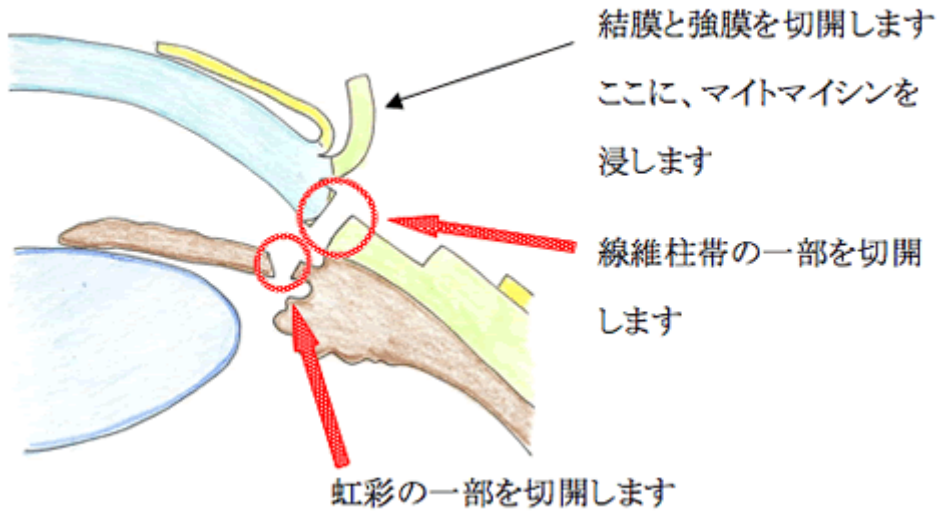


線維柱帯を一部分、切除し、房水の出口を別に作る手術です。

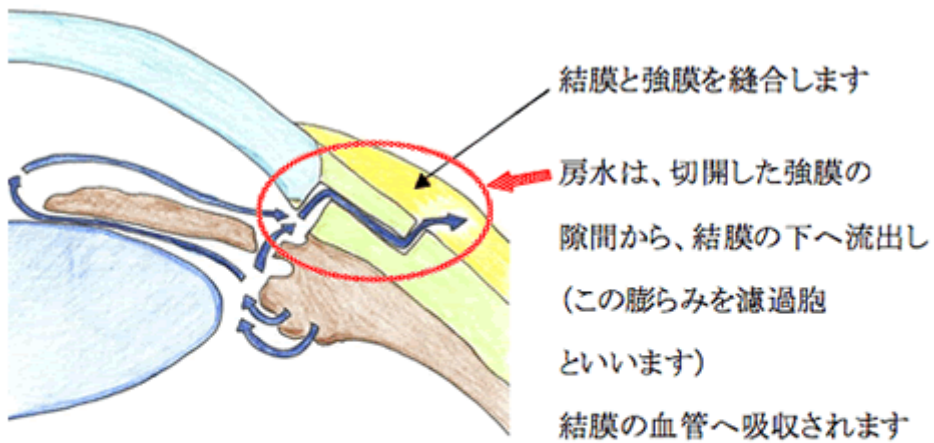
まず結膜と強膜を切開し、線維柱帯を一部、切除します。また、切除した線維柱帯部分に虹彩が癒着してしまわないように、虹彩も一部、切除します。房水の流れ出ている通路が塞がりにくくなるように、傷口を治りにくくする薬（マイトマイシン）を結膜と強膜に浸（ひた）します。最後に、切開した強膜と結膜を再び縫合します。手術後、房水は線維柱帯の切除された出口を通り、強膜の切（せつ）開（かい）創（そう）の隙（すき）間（ま）を通過して結膜の下に流れ、結膜の血管から吸収されます。

結膜の下に房水が貯まるようになり、この膨らみを濾過泡といいます。

<手術>



<手術後>



(以上、トラベクレクトミーの図)

今日はここまでです 2015-4-6

郵便局等が遠く、家内も高齢で脚が弱いため、後期高齢者保険証コピーお送りいたしますのに時間がかかりまして申し訳ありません。保険料滞納など一切ございませんので御安心下さいませ。松本先生いつまでもいつまでもお元気で御活躍下さいませ。

(患者の免疫だけが病気を治すことができる世界でたった一つの医療をやっている私を求めて、全国から自分の免疫を信じてやってこられる患者さんがたくさんおられます。現代の医療は、病医院に出かけて2週間ごとに受診することが基本となっております。しかしながら、遠方から松本医院を受診される人にとって、時間と交通費を考えると実際的には不可能です。したがって、彼も群馬県から来ておられるのですが遠隔治療をせざるをえないのです。遠隔治療を希望される人は毎月保険証の変更がないことを確認するために、保険証コピーをFAXや電子メールを通じて送ってもらうようにしています。)

2011年7月7日

医博松本仁幸先生、今ある命は名医松本先生から賜りました命です。(私の名前を書くときにわざわざ医博をつけて敬意を表されていることに感謝します。私の医学博士の称号はなぜ価値があると思いますか？松本医院は開院して30年経ちます。私が京都府立医大を退職して、漢方を中心とする医院を開業するときに、その当時に京都府立医大第3内科におられた滝野辰郎先生が私にアドバイスをしてくださいました。「巷に漢方薬局や漢方医院がたくさんあるが、現代の漢方医学にはエビデンスがない。なぜ漢方が病気を治すのかを研究しなければ、君が漢方医院をやっても意味がない」と諭されたのです。そこで私は、医院が休みだった月曜日と木曜日に、府立医大第3内科の研究室へ通う事になったのです。そして、月と木はウイークデーであったため、非常に優秀な先生に指導してもらう事ができたのです。いろいろ漢方薬についての研究を試行錯誤した上に、10年間かけて医学博士号をやっと取得することができたのです。博士論文のテーマは『ゴオウ(牛黄)・ユウタン(熊胆)の肝機能障害に及ぼす影響』でした。牛黄というのは牛の胆石であり、熊胆は熊の胆汁・胆石であります。当院は日曜日も診察をやっていますから、私は30年間日曜日のない男だったのですが、研究している10年間というのは休みが一切なかった男でありました(ワハハ)。日本で最も勤勉な医者であったのです。実は現在も月・木は真実を語るために休みはまったくない無いので、死ぬまで休みのない男と言えるのでしょうか？(ワハハ)それくらいに私にとって、真実を求め、えぐり出し、語る事は、楽しいことなのかもしれませんね(ワハハ)。5,6年前、当時群馬大学病院、地域の医院で2年間通院治療いたしましたが、喘息と病名は言いながら通院し続けているのに日毎に息苦しく、動脈血液中酸素濃度81%迄下がり通院が苦しくなり、(正常範囲は94%~97%)東京本郷の東大病院に通院しても喘息と言っているのに検査、検査を繰り返し、ステロイドを服用させるだけで病気は進行するばかり。(現代の医療は、検査だけでも儲かる医療であり、病気を作るばかりの医療ですから、さらにお金を稼げます(ワハハ)。それでは私の医療は何という医療でしょう。病気を患者の免疫で治せる真実の治

療医学であります。真実の治療医学で、その結果お金がいただける医療です。言い換えると患者さんに病気を治してもらってお金が貰える素晴らしい医療です（ワハハ）。

漢方や鍼、お灸は、3000年前から続いている中国人が確立した真実の治療医学であります。中国医学を築いてきた中国の天才医師達は、免疫のことを何一つ知りませんでした。漢方や鍼灸を用いてあらゆる病気を患者さんの免疫で治させてきたのです。言い換えると検査は何一つしたことのない治療医学でありました。なぜ3000年も中国医学、漢方医学が続いてきたのでしょうか？それは漢方が免疫を上げる事ができたからです。

偏差値がナンバーワンの人たちが集まっている病院は、東大医学部附属病院であります。検査をやればやるほどお金が儲かるのはなぜでしょうか？病気を治さなくても、検査をやるということでお金が入る仕組みが現在の国民皆保険であるからです。しかも、検査の後に行う治療と称する行為は、患者の免疫を抑える薬を投与するだけです。病気が治るはずもありません。製薬メーカーが作る薬は免疫を抑えるだけです。永遠に喘息すら治すことができないのです。残念です。

ステロイドはまさに免疫の遺伝子の働きの全てを一時的に変えてしまうからです。ステロイドをやめれば、必ず免疫の回復がリバウンドという形で出現するので、使えば使うほどリバウンドがひどくなり、最後は息ができなくなって死に至るのです。世界中の現代医療の最も大きな誤りは、医者達が製薬メーカーの薬を用いる事で病気を作っているということです。そして、その事をどの医者も知らないことです。本当は知っているのですがね（ワハハ）。正しくは知らないフリをしているだけだと言うべきです。）インターネットで先生を知り、すぐに通院治療を申し入れ新幹線で訪問いたし、処方いただいた漢方薬ですぐ呼吸が改善し、帰りの車内でルンルンで治った、遠いけれど来て良かったと感謝いたし、今日迄喘息は治っています。血糖値が高かったのと、（ステロイド性糖尿病になられたのでしょうか）その後軽い脳梗塞（高齢者がステロイドを年単位で用いると脳の血管内皮細胞の遺伝子が変わり、傷ついた内皮細胞の修復ができなくなり、その傷ついた内皮細胞に血小板がひっつきやすくなります。血小板がひっつくと、血栓となり、その部分の脳の血液循環が不可能となったり、さらにその血栓が剥がれて、その先の細い動脈に詰まったりします。特に脳の動脈は、毛細血管になるまでに他の動脈との繋がりが何もないので、その一本の動脈（終動脈といいます）に血栓ができたり、よそから血栓が飛んできて内腔が閉塞したりしてしまえば血液が通らなくなってしまいます。その結果、毛細血管で酸素と栄養を供給することができなくなり、その周りの脳組織が壊死して脳梗塞となってしまうのです）をリハビリ治療しております74歳で、区長をはじめボランティア事業もなんとか消化しております。ステロイドで骨粗鬆症気味になり骨の薬で回復を図っております。

近畿、関西の皆さんは身近に名医松本先生がいらっしゃるから安心ですね。

感謝の気持ちの心遣いをお送りさせていただきます。(浅岡さん、嘘をつかないでください。僕は名医ではないのです。浅岡さんご自身の免疫の遺伝子が完璧な名医であるだけなのです。私はあなたの免疫の名医の下僕に過ぎないのです。しかしながら下僕は下僕でも最高の下僕なのです。なぜならば医学を知らない一般大衆には見えない免疫の働きを見えるように教えてあげているからです。しかも、教えるだけではなく、免疫を上げる漢方も用意してあげているからです。

この世界から免疫を下げる毒薬を全て追放すれば、実は医者はいらなくなるのです。世界中の医者が漢方だけを用いれば、この世から完全に病気はなくなってしまいます。製薬メーカーの工場を潰して、漢方という農産物を栽培できるように農地に変えてしまえば、病気がなくなります。しかしながら病気がなくなれば、漢方薬を作る農場も必要でなくなるので、結局は誰もが稼げない時代になってしまいます。それでは世界の経済は潰れてしまいますから、免疫を落とす薬を作る製薬メーカーは絶対に必要ですね(ワハハ)。世界の経済を守るためにやはり病気を作り続ける必要がありますよね(ワハハ)。命よりも金が大事ですものね(ワハハ)。

(動脈血液中酸素濃度については、次回詳しく書きますから乞うご期待)

2012年6月21日

若葉目に沁み、郭公鳥<sup>かつこうどり</sup>の声爽やかな候となりました。松本先生お元気で御躍のこと御慶び申し上げます。小生、脳梗塞は高崎の家の近くのリハビリセンターでリハビリいたし杖は使いますが日常生活が出来るまで回復いたしました。75歳に至り健康保険証も後期高齢者保険証に代わりましたので写しを同封申し上げます。先日、電話でお願い申し上げました漢方薬と小セイリュウトウをセットでお送り下さいますようお願い申し上げます。暑中御見舞別送にてお送りさせていただきます。

2013年1月

謹んで新春の御慶び申し上げます。松本先生、皆様御元気で過ごしのことと御慶び申し上げます。早速薬をお送り下さり有難うございました。70歳に近づきますと続けて大病が出ること、身をもって知らされました。先生のお陰で喘息はほとんど治り、次の脳梗塞もリハビリ長かったですけど終わりに近づき、運転免許証の更新に当たり適正検査、実地運転も合格いたしました。以前から勉強しておりました有機化学合成と生化学活用で農作物を特徴づけるアドバイスをして参ります。先生も無理なさらぬよう人助けにお勤め下さいませ。保険証コピーお送り申し上げます。(彼のインテリジェンスと高貴な人間性は、このような手紙によって皆さんもご理解できるでしょう。しかしながら、時々間違

いを書かれることがあります。「先生も無理なさらぬよう人助けにお勤め下さいませ。」という文章に実は間違いがあるのです。正しくは、私はお金をもらわなければ人助けをしていることになるでしょうが、私は診療代をもらっているで、彼も私に人助けをしているのです（ワハハ）。私も診療代をもらっているで彼に人助けをしてもらっているのです。東大附属病院の先生のように病気を作ってお金を儲けているのは、決して人助けではないでしょうが。医者の仕事は患者さんの病気を治す事ですから、当たり前のことをしていただけです。その報酬としてお金をもらっているだけですから、人助けという言い方はちょっと嘘っぽいですね。浅岡さんの耳にはこのような言い方は、素直でないと思われるかもしれませんが、ごめんなさい。病気を治すのは浅岡さんご自身の免疫ですから、浅岡さん自身の免疫が浅岡さん自身に対して人助けをしているというべきです。）

2013年5月

医学博士松本仁幸先生、御健勝にて御活躍のことお慶び申し上げます。先生には群大、東大病院で通院中も血液中酸素濃度 81% (正常値は 94%~97%) 迄下がり、4, 50 メートル歩くのも苦しくインターネットで松本医院を知り、JR でお伺いいたし、命を救っていただきました。(命を救うのは自分の免疫の遺伝子だけです。) それから 2 年半後、事務所で工作中、脳梗塞になり救急車で日医大病院に運ばれ入院、リハビリ病院に入院・通院、大震災で東京にて治療出来なくなり高崎のリハビリ病院にて左脚腕のリハビリに努めておりますが、この病は回復が遅く療法士に付き添われて杖で歩行練習いたし、東京へ JR で帰りたいとも杖をついても外歩きは出来ませんと病院からの指示でございますし、JR に歩行での乗車は怪我した時、保険がきかないような事を言われておりますのでもう少し安定して歩けますようになりましたら松本先生に問診頂きたく考えております。只今、漢方薬お送り頂きまして有難うございました。気持ちの上では、有機・生化学を一層探究し、松茸をはじめ<sup>きのこ</sup>茸の効率栽培・野菜のコントロール栽培のアドバイス、安い輸入砂糖を体内糖の分解消化のクエン酸や血液凝固阻止の為、クエン酸ナトリウム (このクエン酸ナトリウムは血沈を調べる時にも血液が凝固しないために用います) に変換し、高齢社会に少しでも貢献できるようアドバイスして参りたく、有機化学合成・生化学を探究して参りたく考えております。(私は 70 歳を越えた爺であります、医学の真実を追求すべく浅岡さんに負けず頑張っています。)

医学博士松本仁幸先生の御健康と御活躍をお祈り申し上げ、公私に亘る御指導、アドバイスを賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

梅雨に入りました。近年は豪雨、竜巻、雷雨洪水と万葉時代のような趣がございませぬ。松本先生のお陰で喜寿（77歳）を迎える事が出来ました。松本医院の漢方医学の的確な医療の実力です。私が慶大在学中に東大への疑問が今日の京大、東大の歴然たる実力差、高評価の差となって公然と東大に対する批判が広がっております。東大の年間研究費、税金よりの助成額、1,650億円。京大は山中教授のIPS細胞成果により800億円に増加しましたが、東大の官僚予備校化の為、検診者を病気の深みに引きずり込む。（浅岡さん、京大も似たりよったりですよ）テレビでも報道されました東大出の弁護士の犯罪数が圧倒的なこと。明治22年レントゲン博士が放射能の被爆の生体へのX線生体障害量単位をレム、現在シーベルトの100分の一の量を設定していますが、現医療は放射線で5分-10分それ以上の照射の為、細胞の癌化により絶命させている刑法未必の故意第38条に当たります。（「未必（みひつ）の故意」とは意図的に犯罪を行おうとするのではない（つまり故意ではない）のですが、結果的に犯罪行為になってもかまわないと思って犯行に及ぶ際の容疑者の心理状態をいいます）放射線用いないMRI磁器共鳴断層撮法の方が安全で、血管の状況、血流量迄撮影出来ます。東大・官僚・医師会の癒着（浅岡さんは東大や官僚や医師会に対して批判的ですが、いずれにせよ頭の良い権力者はどの国においても好きなことができるので、浅岡さんの心情は僕も共感できます。）、刑法60条による共同正犯罪も成立いたします国家医療費増加を促しております。（浅岡さんはおそらく慶応大学法学部卒業の方だと推察されます。それは刑法第38条とか刑法第60条という条項がまるで日常茶飯事のように口をついて出てくるからです。この3者の共同正犯に製薬メーカーも加えるべきではないでしょうか。その訴訟根拠は、4者が共同で患者の病気を治すどころか、作り続けているからです。このような訴訟は国家犯罪を追及することになりますから、裁判にかけても意味がないことになるでしょうね（ワハハ）。国家に対し、訴訟をして勝てると思いませんか？無理です（ワハハ））

サントリーを先頭に味の素がDHA（DHAはドコサヘキサエン酸であります）、EPA（EPAはエイコサペンタエン酸であります）のサプリメント販売を始めましたが、動脈硬化予防に役立つと思います。自動車の排ガスから産まれるPM2.5等の化学物質による大気汚染によりアレルギー体質が顕在化いたします。松本医博先生、日本 中国 ユーラシア（テレサ・テンが喘息発作で絶命いたしました）などでますます気管支喘息を始めとするアレルギー疾患が増えています。このようなアレルギー疾患に対峙下さる松本先生の御健康、御活躍を心からお祈り申し上げます。（その通りです。200年前に産業革命が始まって以来、工業化学物質が地球を汚し始めました。この化学物質こそがあらゆるアレルギーの原因ですが、化学物質を専ら作っている製薬メーカーが怖くて誰も言いません。キチガイ同然の松本医院の松本が言い続けていますが、無視されるだけで、何の力にもなっていません。しかしながら、私の真実を共有していた

だっている浅岡さんのようなインテリジェンスの高い患者さんが徐々に増えているのは、限りなくうれしい事です。)

2014年8月7日

残暑お見舞い申し上げます。粗品お喜び頂きほっといたしております。研究に専念され実績を残してこられました大物真面目人物である理研の笹井芳樹先生が、STAP細胞に関わり、自ら命を絶たれる結末になってしまいましたこと悲しい想いでございます。後期高齢者医療保険者証26年7月31日、更新になりますので新保険証コピーを送付申し上げます。

松本先生の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

今日はここまでです 2015-4-13

日付不明

医博松本先生、墮落した日本の官僚医学会から人間としての使命を叩きこむ倫理概念を喚起するよう御指摘下さいませようお願い申し上げます。(昔から衣食足りて礼節を知ると言われています。世界で最も衣食が足りている国はアメリカであり、日本であり、中国であります。ところが、文明史上最高の豊かさを誇っているアメリカの犯罪率は世界一であります。衣食足りて犯罪が栄えるということわざが正しいようです。(ワハハ)中国においても然り、日本においても然りであります。なぜ人間は衣食が足りているのに、つまり、物質的欲望が満たされているにも関わらず、ますます暴力的犯罪のみならず、知的犯罪が増え続けていくのでしょうか。答えは簡単です。人間がエゴを持ち続ける限り、言い換えるとエゴなる遺伝子が人間を生かし続けている限り、欲望は無限であり、満たされる事はないからです。この無限の欲望を生み出すエゴなる遺伝子が生命の根源である限り、エゴを満たすために人類絶滅まで腐敗墮落が人間社会の実相となり続けるでしょう。全世界が貧乏になれば、他人から取るものがなくなりますから犯罪もなくなるでしょう。だからこそ、豊かであればあるほど、世界は犯罪が栄えるのです。とりわけ権力を持った人間は、こっそりと豊かすぎる国家財産を盗み、権力者は誰の抑制も受ける必要がないので、未来永劫に渡って好き放題にやり続けるでしょう。残念です。頭の悪い人間に気づかれずに快樂を得ようと、ずる賢い頭を磨き続けているのは、何も日本の官僚や医者だけではありません。金と権力と知恵と独特な宗教を持った最も賢い人間は、今後も世界を支配続けるでしょう。

皆さん、中国の毛沢東がプロレタリア文化大革命を行って大失敗したことをご存じでしょう。文化大革命は1966年～1977年まで続きましたが、こ



れにより中国社会は大混乱に陥りました。毛沢東は、共産主義を続けたいと考えていましたが、どうしても共産主義では金が儲かりませんでした。マルクス主義によれば、人類社会の発展段階の最後のステージは、共産主義社会であるとされています。毛沢東は、その最高の共産主義が中国で上手くいかないのは、中国人の心が十分に共産主義にふさわしい心まで成長していないためと考えました。そこで彼は、人間の心、つまり人間の頭脳を共産主義に相応しいものに変えようとしたのです。彼が文化大革命をやったときには、もう老いぼれ爺さんでしたが、自分と同じような老人は、頭が凝り固まっており、考え方を考える事ができないと考えました。だから、未熟な若者を紅衛兵として動員し、既に頭が固まってしまった知識人や老人や政敵をいじめたのです。しかし、もちろん人間の心の元となっているエゴなる脳の遺伝子を変える事などはできないので、11年間続いた文化大革命は、大失敗に終わりました。毛沢東は、遺伝学者でもなかったのに、エゴなる遺伝子の事は一切知らなかったのです(ワハハ)。

そこに、突如、鄧小平が現れたのです。彼は、問題は、変えられない人間の心ではなくて、イデオロギーとしての共産主義だということに気がついたのです。そこで、国家資本主義をやりだし、30年前後かけて日本を追い越し、あと数年でアメリカを追い越すほどの経済大国になる基礎を築いたのです。

共産主義の時代においては、頭の良い(資本主義社会であれば金持ちになれた)人達は、貧富の差を作る事さえできませんでした。金が中国になかったのからです(ワハハ)。皮肉を言わせてもらえば、毛沢東の老害が現代の中国を作ったので、今なお毛沢東が中国では崇拜されているのでしょう(ワハハ)。ところが、GDPが1000兆円を超えている現代中国では、貧富の差がアメリカに劣らないほどになってしまいました。権力者や国家企業の経営者達が、国家の金をまるで自分の金のように懐に入れだしたのです。このような官僚や共産党の権力者達の腐敗墮落ぶりは、新聞にも書かれておりますので、皆さんも、ご存じいただいていることでしょう。中国の現代史を少し振り返るだけでもわかるように、金が儲からなければ、誰も働かないのです。中国の共産主義が崩壊してしまったのは当然だったのです。一方、権力を思う存分利用できる人達が、罰せられない限り、金を懐に入れるために、国家の金を盗み取っていくのも至極当然なことです。権力者を罰することができる人がどこにいますか?この真実は、あらゆる国家体制に関わらず共通の真実であります。これは、医療の絶対権力を掌握している医者についてもいえる事です。

病気を治すのは38億年という無限の時間に渡って生命を生き続けさせた免疫の遺伝子であるにもかかわらず、現代医療の医師達が、その遺伝子の働きを壊して、お金を稼ぎ続けていることをご存じの浅岡さんは、文の最初に「墮落した日本の官僚医学会から人間としての使命を叩きこむ倫理概念を喚起するよう御指摘下さいますようお願い申し上げます。」と現代医療を批判的に書かれました。しかしながら、私がいかに情熱をこめて世間や患者に現代の医療は間違

っていると言いつけ、その根拠をわかりやすくこのようなホームページで主張しても、今のシステムで医薬業界がお金を儲け続ける限り、変わるわけではないのです。今の医療を変えるには、「患者は病気を作られているだけあり、病気を治すのは自分自身の免疫である」ということに、患者自身が気づかないかぎり無理なのです。建前上、現代の保険医療の根幹である国民皆保険は、一般大衆の病気を治すために作られたとされていますが、実は医療行為を通じて病気を作ってお金儲けを保証しているだけなのです。この真実を患者のほとんどが知りません、いや、知ろうとしません。言うまでもなく、病気を治すのは免疫ですが、その免疫の働きを素人である患者が十分にわかるはずがありません。だからこそ、現代の医者は、病気づくりへと邁進できるのです。

患者さんは、免疫の詳しい働きまで知る必要はありませんが、病気を治すことができるのは患者さんの免疫だけである事だけは知っていただきたいと思えます。病気を治すのは、医者でもなく、薬でもなく、患者さん自身の免疫の遺伝子なのです。免疫の遺伝子の中には、病気を治せる免疫病院があり、その免疫病院の中に病気を治せる免疫医者が住み、その免疫病院の免器薬局の中に病気を治す免疫薬メーカーがあるのだということに気がついてもらえば良いのです。これだけわかってもらえば、他の免疫の話などはどうでも良いのです。医師であり、病院であり、薬を作っている患者の免疫の遺伝子に万歳！（ワハハ）

家庭の医学のテレビ番組をみておきますと気管支喘息と診断されて通院、ステロイド吸引治療しているが全くよくなるのか。（まず民間のTV番組はスポンサーからお金をもらって経営されておられます。北朝鮮などを除いて地球のほとんどの国家は資本主義をやっています。資本主義はご存じのように金が全てです。いや、共産主義国家である北朝鮮も金がないために四苦八苦しています。核兵器を作るために、人民は世界一貧乏な生活をしています。金がなければ、人間存在さえも不可能です。物を作っても、売れなければ会社は倒産するだけです。たくさん製品を売ってもらうために生まれたのが宣伝媒体である情報産業であります。真実を商品化して、この世に幸せを生み出し、その結果お金を稼ぐことができれば、真実は資本主義の最高の商品です。しかし、実際は、真実を喧伝するだけで、お金は儲かりません。医薬品でいえば、免疫を援助する薬が理想の製品であります。その中に、漢方生薬とワクチンと抗生物質と抗ヘルペス剤が含まれますが、この4つの製品だけでは、医薬業界は繁栄できません。そこで、症状を取ることができるが病気を治せない、免疫を抑える薬を製薬メーカーが作り出したのです。

お金を儲けたい製薬メーカーは、このような免疫を抑える医薬品の有害さについて、宣伝媒体に一言も口にさせません。その代わりに、広告会社の代表である電通や博報堂にお金を渡すことで、症状だけを除去できる薬品が病気を治せる薬であるように思わせるための宣伝を繰り返すことによって、愚かな一

般大衆を洗脳していきます。例えば、気管支喘息は、絶対治らない病気だと言  
い触れ回っていますが、本当は治すことができる喘息を永遠に治せなくしてい  
るのです。これが現代の医療です。自分の免疫でしか病気は治せないにもか  
かわらず、免疫を抑える薬だけしか製薬メーカーは作れないので、「病気を治す  
のは自分の免疫だ」という真実は絶対に口にしません。人間が自分だけの欲望  
を満たすために資本主義を作ったのでありますが、金が世界を支配する限り、  
真実はますます肩身が狭くなるでしょう。教育で真実が一番大事だという事  
を教えるべきですが、そんな教育を実践している資本主義国家は何一つあり  
ません。残念です。)

北海道大のインターン三人に病状から病名を当てる番組で、息苦しいとの症  
状に肺の動脈に血栓が詰まっている病（病名は専門的な名前でした）でカテー  
テルで取り除かねばと公言していました。（一般大衆は医療に関しては無知で  
すから、診断の意味さえ理解していません。ただ医者が出てくるTV番組や映画  
は、何か真実の情報が得られるのではないかとということで、人気があります。  
しかし、そのようなTV番組や映画に、病気を治すのが自分の免疫であるとい  
う話は一切出てこないのです。）「病気にならないようにするには」とは、避け  
ている。（病気とは、異物が人間の免疫に認識されて、その異物を排除するた  
めに免疫が戦い始めたときに症状として自覚されるものです。したがって、病  
気にならないためには、異物をいれなければ良いのです。現代文明における免  
疫にとっての異物は化学物質とウイルスと細菌だけなのですが、一般大衆は、  
こんなことさえ知らされてはいません。喘息は、化学物質を気管支で処理す  
るために症状が起こるのです。したがって、化学物質さえなければ気管支喘  
息は起こりえないのですが、これも世界中の医者は誰も口にしません。人体  
に入ってはいけないこのような化学物質を排除しようとするために喘息が起  
こるので、実は喘息は良い事なのです。症状は、免疫が人体に侵入した異物  
を排除しようとする働きの結果に過ぎないにもかかわらず、世界中の医者は、  
ステロイドを始めとする免疫の働きを抑える薬を使って金儲けをしている  
のです。確かに喘息は非常に苦しいので、ステロイドを用いることで呼吸が  
楽になると医学に無知な大衆は満足するのでありますが、ステロイドを繰  
り返し用いるたびに、化学物質は気管支に溜まり、免疫は遺伝子を変えら  
れて働かなくなっていく。しかし、ステロイドによって改悪された免疫遺  
伝子によって、正常に戻ろうとするので、いつまでも同じことが繰り返さ  
れるのです。

このようにして一生治らない病気にしてるのは、製薬メーカーの薬であり、  
それを投与する医者なのです。浅岡さんは、素人であるにもかかわらずこの  
事を理解しておられるので、このような舌鋒鋭い批判的な手記となっている  
のです。）カテキンなど最近の公式研究により発癌物質の形成を防ぎ癌予防  
と食中毒予防殺菌作用、コレステロール減らし血圧下げ動脈硬化高血圧予  
防、過酸化を

防ぎ、老化防止作用など病人が減り、病院が暇になっては困るようなことは一切言わない。東電会長が毎日、送迎ゴルフ日参。刑法 193 条の職権乱用。会長出身企業が福島原発巨額工事に参入していた。197 条の受託賄賂罪、2 つの週刊誌が取り上げ公表しているのに警察庁が動かないとすれば職権乱用罪か刑法 60 条の共同正犯が成立します。(慶応大学法学部出身の正義感に燃えた浅岡さんですから、現代社会を告発するために、法律用語や条項がどんどん出てきます。しかしながら、この法律通りに罪が罰せられないのはなぜでしょうか？皆さん考えてみてください。法治国家といえども、実は強い権力とずる賢い頭を持っている人が法律を運用しているだけで、法の執行も非常に恣意的であるという事を、彼は伝えてくれているのです。それでは法治国家の法を上回る力は何なのでしょう？金でしょう？権力でしょう？(ワハハ) 警察庁の内部告発を題材にしている水谷豊が「相棒」で取り上げますこと待っております。60 歳で病気を乗り越したくない意向で人間ドッグや CT 検査を受け、何の異常もなかったと喜んでいた大会社社長、副社長他、親友の味の素の顧問も 4, 5 年後から発癌、切開手術数回後、絶命。享年 68 歳でした。(実は、人間ドックや健診というものは、これだけ医療が身近になり、ほとんどの人が医療機関に通った経験がある現代の日本ではいらぬのです。現代の病気の原因は五つしかありません。一つは化学物質であり、二つ目はヘルペスウイルスであり、三つ目は成人病であり、四つ目は遺伝子病であります。あえて言えば、五つ目は風邪のウイルスです。

一つ目の化学物質から生まれる病気はアレルギーと膠原病です。膠原病はアレルギーにクラススイッチして最後は自然後天的免疫寛容で化学物質と共存すれば治ります。

二つ目のヘルペスウイルスは、殺しきれないので、一生戦い続ける必要があります。しかしながら、人間もヘルペスウイルスに殺される事はないので、心配することはないのです。しかし、様々な不愉快な神経症状が死ぬまで出てくる事があるのです。ヘルペスウイルスについては、[ここ](#)を読んでください。

三つ目の成人病は、欲望が作り出した病気です。成人病には、まず高脂血症と肥満があります。次に糖尿病があります。最後の一つが高血圧です。この三つの成人病は、全て欲望を制御できない愚かな人間が作り出したものです。言い換えると節度を失った人が長い時間をかけて作り出したものです。長きにわたる間違った生活習慣が作り出した病気、つまり生活習慣病です。

高脂血症と糖尿病は、豊かさが作り出した病気ともいえます。毎日活動のために必要なカロリー以上の食事を摂りすぎたために生じた病気です。まさに自分自身が作り出した病気であります。

同じ自分自身が作り出す病気の一つに膠原病があります。

膠原病は本来アレルギーになるべきであるのに、自分のステロイドホルモンを出し過ぎて、自分で免疫を抑えたために作った病気です。つまり、ステロイドホルモンを必要とする心の在り方が膠原病を作り出しているのです。ただ、

成人病が膠原病と違うところは、何も免疫を抑えたために起こったものではないという点です。

最後の高血圧も子供には見られない病気です。それではなぜ子供に高血圧がなく、成人になって起こるのでしょうか？やはりこれも、長い間の心の在り方が関わっています。皆さん、この世で一番ステロイドホルモンを出し、かつ、アドレナリンを出す必要がある状況とはなんのでしょうか？自分の力で他人の世話を受けずに生き続ける事です。生き続けるためには何が必要でしょうか？お金です。お金が腐るほどあれば、働く必要がないので、ストレスホルモンを出す必要はありません。この生きるためのお金を誰かがくれるのでしょうか？宗教団体がお金をくれれば良いのですが、実際はお布施という名で金を巻き上げています。それではどうしたら良いのでしょうか？やはり、働かざるを得ません。

毎年、四月になると就職のシーズンが始まります。職に就くという事は、何の意味を持つのでしょうか？まさに自分の心身を酷使して、自分で金を稼ぐことです。大金を稼げる会社が一番良い就職先であります。そのような会社は優秀な人間しか採りませんので、しかたなく中小企業に勤めざるをえない学生もたくさんいます。就職先が決まると、それまでの遊びの世界からサヨナラをして、自分で稼ぐ世界へと突入していきます。学生時代は、誰かに強制されることは何一つありませんが、金を会社から賃金としてもらうようになると、全て会社の命令に従って働く事となります。つまり強制です。嫌な事が多過ぎます。ストレスばかりです。このような状況に耐えるためには、朝から晩までステロイドホルモンを副腎皮質から出すのみならず、副腎髄質からも交感神経を酷使するためにアドレナリンを毎日毎日出し続けます。仕事をこなすために常に心臓から最大量の血液を出させ、全身の血管を収縮させながら体中にめぐらせます。長年にわたって収縮し続ける血管は、気がつかないうちに固くなっていき、いつの間にか必要がないのにもかかわらず、習慣的に血圧が休みの日も上がるようになります。これが高血圧です。一生遊んで暮らすことができれば、他人に強制され血圧を無理に上げなくてもよいので、高血圧になることも少ないのです。江戸時代の資料は何もないのですが、江戸時代には高血圧は極めて少なかったと考えます。なぜならば、農耕社会においては、金を稼ぐために過剰な競争がなかったからです。誰か研究者に、江戸時代のみならず、農耕社会の歴史において、成人病があったのかどうかを研究してもらいたいものです。もちろん、高脂血症の結果、脂肪が血管内壁に付着して、動脈硬化を起こし、血管が硬くなり、その結果高血圧が起こる事もあるのですが、果たして、必要以上にカロリーを摂りすぎて高脂血症を起こすという贅沢な人たちが江戸時代にどれだけいたのでしょうか？ほとんど皆無でしょう。

結論を言いましょう。病気の全ては自分の心で作っていると言っても過言ではないのです。心のストレスに対抗するために出されるステロイドホルモンは、ほとんど全ての病気の原因となっていますし、豊かさと欲望過多のために大量の脂肪を血管壁に蓄積して動脈硬化を起こすのも、欲望をコントロールできな

い心の弱さから生まれたものなのです。

松本先生、福沢諭吉も学び、塾頭も勤めた適々齋塾を開かれた緒方洪庵先生の平成再現の先生とあられて御活躍下さりますようお願い申し上げます。(私を緒方洪庵先生に例えてくださるのは、至極光栄です。言わせてもらえば、緒方洪庵先生は免疫のことを何もご存じなかったのも、喜んでいいのか、悲しんでいいのかわかりませんが。ワハハ。緒方洪庵先生の適塾は阪大の医学部に継承されています。しかし、その阪大の先生方が、緒方洪庵先生の病人を救うという意思を裏切って、率先して免疫を殺す研究に励み、病人を増やしている事を知れば、緒方先生は草葉の陰で涙を流されるでしょう。ワハハ)

2014年12月28日

2014年も矢のごとく過ぎ、新年が明けようとしております。京都府立医大医博松本仁幸先生には御健勝にて御活躍御慶び申し上げます。小生、喘息発作から群大附属病院に二年間、東大附属病院に五ヶ月間通院いたしました。(今をときめく悪名高い群馬大学によく二年間も通われましたね。殺されなくてよかったですね。ワハハ。皆さんご存知のように群馬大の腹腔鏡手術で8人死んだ(殺された?)記事をもうすでに何回も読まれたことでしょう。)しかしながら、ステロイド吸引治療の為、血液中酸素濃度値、98から81迄ドンドン下がり東大正門前マンションから目の前の構内東大病院へ4,50歩あるけば息切れし、並木の木々を伝い歩きし 東大病院でも、この程度かと思いつつながら通院し続けました。(群馬大も東大もやっている間違っただけな医療は、免疫を抑えるだけなのです。無知な大衆は、病院や医院を変えれば、違った治療が行われ、病気を治してもらえんと思っている人ばかりですが、それは妄想というものです。もちろん松本医院を除く必要がありますが、なぜならば、現代の医療は、それぞれの専門家の集団である多種多様の医学会が取りしきっています。この医学会や他の大病院には、製薬メーカーが毎年4000億以上のお金を嬉々として運んでいます。それは、医学会の大物に宣伝してもらいさえすれば、免疫を抑えるまやかしの薬でも大量に使ってもらい、売上を上げることができるからです。製薬メーカーは毎年300億円をこのような医学会のお偉方にも講演料として直接プレゼントしております。前にも書いたように、そのトップは順天堂大学の教授の糖尿病の専門家でおられる河盛隆三先生です。彼は、去年(2014年)に4800万円ももらっています。このように医学会や医学会の重鎮先生方が寄り集まって標準治療という名のガイドラインを作っています。嫌味な言い方をさせてもらえば、病名によって使う薬を決めて、その薬を使う事が一番スタンダードである優れた治療だと決めているのです。しかし、最高治療とは決していいません。最高の治療はもちろん病気を治す治療ですが、標準治療では治らないという事はわかっているので、最高治療とは言えないのです。では、最高治療とは何でしょうか?それは患者さん自身の免疫の遺伝子で行う治療であり、

免疫を助ける治療です。だから最高治療は、免疫を助ける漢方煎じ薬しかないのです。

ところが、漢方煎じ薬は、ちょうど食事を作るように煎じる手間があるものですから、その手間を省くためにエキス剤が生まれました。元々、中国3000年の漢方薬は煎じ薬だけでした。つまり、面倒でも時間をかけて煎じて免疫を上げる成分を煮出すことが3000年の漢方薬の歴史が打ち立てたやり方なのですが、漢方製薬メーカーが作ったエキス剤は始めからエキスが小袋に詰められており、簡便であるため、日本全国の医者が使いだしたのです。さらに悪いことに、本来免疫を上げるために用いられるはずの漢方と同時にステロイドを始めとする、あらゆる免疫抑制剤を併用させるようになりました。おそらくは、売上を増やすためでしょう。一方で免疫を上げ、他方で免疫を下げて、どうして人間の免疫は病気を治すことができるのでしょうか？不可能です。そのために病気は治らないどころか、拡大再生産され、医療費も上がるようになってしまいました。言うまでもなく、病気を治すのは免疫だけですから、その免疫の手助けをする漢方を使いながら、同時に病気を作る製薬メーカーの薬を使うのはまったく意味がないのです。ただし、製薬メーカーが作る抗生物質と、抗ヘルペス剤、最低必要なワクチンは免疫をヘルプしてくれますから価値があります。それ以外の製薬メーカーが作る薬は免疫をヘルプするどころか免疫を抑えるだけですから、作るべきではないのです。

というと、次のような反論が出てくるでしょう。成人病を治せる薬は漢方にあるのかと。そうです、成人病は免疫の病気ではないので、高血圧や糖尿病や高脂血症に良い薬は何もないのです。それでは、今まで考えたこともないテーマに挑戦しましょう。

そのテーマは、なぜ漢方薬は成人病に対して、3000年の中国漢方で生まれなかったのでしょうか？

まず一つ目は、中国3000年の歴史の中で、成人病はなかったからです。なぜならば、成人病を作る前に寿命が尽きてしまったからです。したがって成人病で悩む人がいなかったのです。成人病に良い漢方生薬を作る必要がなかったからです。それでは、成人病があれば、それに対して、漢方処方は生まれたのでしょうか？答えは否です。なぜでしょうか？

それに対する答えが二つ目の答えになります。漢方薬はどこから得られるのでしょうか？植物です。植物は何のために「良薬口に苦し」と言われる、苦い部分の成分を作ったのでしょうか？それは植物だけに感染するウイルスや細菌やカビ、害虫から身を守るためです。植物はこの苦い部分の成分により、以上の敵を殺すか、共存するか、追っ払うかして、自分の身を守ることができたのです。これらの働きは、まさに植物の免疫の働きというべきです。つまり、漢方薬の苦い成分は、植物の感染症に対する武器であったのです。決して成人した植物の成人病に対して作られた成分ではないのです。

三つ目はなんでしょう？植物が人間と同じように、栄養を摂りすぎて成人病

を起こすことは果たしてあるのでしょうか？あるわけはありません。光合成をやりすぎて栄養成分を作りすぎて成人病になることは、絶対にはないのです。長生きしすぎて、栄養過多で成人病にならないことは自明の理でしょう。植物には何千年も長生きする植物がいますし、1年で寿命が尽きる植物もごまんとあります。いわば、老化と寿命も植物にはあるでしょうが、老化も寿命も病気ではありません。

さあ四つ目は为什么呢？四つ目は植物には欲望がないからです。植物には欲望の遺伝子が宿る心、つまり頭脳の遺伝子がありません。成人病の成り立ちは、ちょっと前に書いたように欲望が作るからです。第一、植物は自分で物を作り、自分でそれを所有し、無限に栄養を摂取することはできません。いわば、植物の栄養は光だけです。光合成で必要な栄養物を作るだけですから、欲望もクソもありません。ただ、光だけは必要ですから、光に向かって成長していきます。つまり、必要なのは、光と水と土だけです。それらが少なければ死に絶えるだけです。

五つ目は为什么呢？成人病は必要である栄養分が過剰に人体に摂取されて作られる病気です。それでは植物自身が作った糖分や脂質や蛋白が過剰になることがあるのでしょうか？あるはずもありません。植物が長生きすればするほど過剰な糖や脂質が植物の成人病を作るはずもありません。第一植物には成人という概念も当てはめる事は無理でしょう。だって、一年草は一年で寿命を終えてしまうからです。

六つ目は为什么呢？元来、人間の成人病は、自分の意思で、自分の欲望を満たすために、自分で勝手に作った病気です。果たして植物は、欲望も満足するとかしないに関わる意欲とかはあるのでしょうか？あるわけはありません。だから植物の成人病は絶対ないと言えるのです。

七つ目は、植物に血管がないので、人間のように動脈硬化をよくする成分を作る必要がないから、人間の動脈硬化に作用する成分はないのです。これを最初に書くべきだったのですが、自分が立てたテーマがおもしろかったので、思考を巡らせました。考える事はおもしろいことだと思いませんか？

結論は、漢方薬を飲めば確かにウイルスや細菌などを殺す成分を植物から得る事はできますが、成人病になるわけがない植物の成分を飲んだからといって、成人病が良くなる成分があるわけがないのです。それどころか、米も小麦も漢方薬も本来植物です。昔からよく言われるように、医食同源であり、薬食同源であります。医と薬は漢方生薬であり、食は栄養である食物であります。もちろん医薬品になる漢方薬も元は植物の光合成から作られた炭水化物であり、脂質であり、蛋白であります。漢方薬といえども、光合成で作った三大栄養素は残っています。したがって、漢方薬を飲めば飲むほど、三大栄養素を過剰に摂っていることになるかもしれません。確かな事は、漢方生薬を飲みなれるとおいしく感じられることが、しばしばあります。つまり、おいしさは炭水化物の糖分から生まれるものです。昔は栄養不良の時代でしたから、漢方生薬を煮出



して飲ませることは、同時に栄養補給の意味もあったはずですが。この現代的な意味は何でしょうか？近頃サプリメントや健康補助食品という名で色々なものが売られていますが、漢方薬は最高の免疫を上げる農産物であると同時に、最高の健康補助食品と言えるのです。サプリメントを飲むなら命も守ってくれる漢方生薬を煎じて飲みましょう。ワハハ。

今までの話を逆に言い換えると漢方生薬で健康補助をやりすぎて、糖尿病や高脂血症にならないとも限りません。だからこそ、どの漢方薬書にも堂々と糖尿病や高脂血症に効くという項目を作る事ができないのです。それでは高血圧に対して血圧を下げる漢方はあるのでしょうか？結論から言うとありません。漢方で血圧を下げたいと望んでやってこられる患者さんがおられますが、漢方で血圧を下げることはできません。なぜでしょうか？まず、先ほども言いましたように、漢方生薬は人間の免疫を手助けするからこそ、価値があるのです。それでは高血圧は人間の免疫の働きが弱くなったので、生じる病気でしょうか？いえ、決してそうではありません。もう一度考えてみましょう。免疫を上げるのはどういうときに必要なのでしょうか？それは異物が侵入したときに、その異物を処理するために急に働く機能です。異物が入らない限りは免疫の機能は働かす必要はありません。高血圧は免疫と関わりがあるのでしょうか？何か血圧を上げる異物が入ったために高血圧という病気が生まれたのでしょうか？上で述べたように、まったく違います。確かに脂肪の摂りすぎで動脈硬化が起こり、血管が硬くなり血圧が上がる事も既に述べました。) インターネットで貴院を知り、即刻 JR 東京駅から高槻の貴院に辿り着き、御母様、御奥様、松本先生、全員高尚な前向きな医師ご一家であられることも知り、診察頂く間に、助かった、命拾いしたと感じ、帰路には息苦しさは消え、二日後には高島屋で新商品の照会に立ち会う程健康になっておりました。(浅岡さんは、群馬大や東大の附属病院で少々免疫を抑えるイタズラをされたのですが、長期ではなかったのが、治りが早かったのです。リバウンドの強さは当院に来られる前にどれだけ他の病医院でステロイドを使ってきたかによって決まります。いくら私がステロイドは喘息を治すための治療薬ではないと言い張ったところで、ステロイドほど病医院に富をもたらすものはないので、これから先も無知な患者は使い続けることになるでしょう。もちろんステロイドを使いたい患者は自由に使えば良いのです。ワハハ) 先日テレビで北米の喘息患者達が発作緊急対応用に携帯ステロイド吸引具を持ち歩いていること知り、松本医院の漢方治療の凄さを実感いたしました。 (全世界の医療もグローバル化しております。医療も無批判にアメリカの医療が最高であるとされています。だからこそ、日本の大学の教授になるためには、アメリカに留学しているかどうか非常に重要な地位への必須条件になります。結局は病気を治すために、留学するのではなくて世界的な製薬メーカーがお金を稼ぐための修練を積むだけです。日本には、中国の3000年を超える自分の免疫で病気を治す漢方治療医学があるにもかかわらず、アメリカ詣でが今なお続いています。中国を中心とするA I I B (Asian

infrastructure Investment Bank) が6月に57か国で発足します。アメリカと日本は既に支配しているワールドバンクやIMFと対抗するAIIBに対して激しい嫉妬を感じております。嫉妬を感じるのは、中国漢方に向けられるべきです。ところが医療に関しては、中国も中国人自身が作った病気を治せる中国漢方では儲からないので、ますますアメリカに真似ようとしています。そして病気を作って、アメリカ以上に中国が儲ける医療体制に入りつつあります。やはり、病気を治してしまうと患者がなくなってしまう。やはり、中国も資本主義医療をやりだしたものですから、一番金が儲かる医療でアメリカの医療を真似るのは当然と言えば当然です。資本主義が栄える限り、全世界の医療はこぞって病気作りに励むことになるでしょう。残念です。) 人体の免疫細胞が正しく反応しIgEを作って異物を排除しようとする病(アレルギー、喘息、癌、血圧、認知症)などの治療は地上に存在する生命体がつ未知の力を、胸襟を開いて研究し、活用して効率的に人類の生存への貢献しなければと感じます。(アレルギーに関しては、既に私が100%治し方を完成している事を浅岡さんは、いまだご存じないようです。ただ、癌や認知症はこれからの答えを待つ以外にありません。)

京都府立医大医博松本仁幸先生、本当に有難うございました。今後とも御教授下さいますようお願い申し上げます。カテキン、ルチン、EPA、DHA、他天然に存在する驚異的成分の活用が広まりますこと願っております。松本先生や御家族様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

2015年4月12日

彼岸過ぎて風暖かく、日本列島桜花爛漫に包まれます候となりました。

松本先生、御家族様、お元気で御活躍のことお慶び申し上げます。小生、最近、肺胞を痰が覆っていて、血液中酸素濃度が急降下している為か動かなくても息苦しい為、残り僅かな煎じ薬を飲みましたら、痰がポロッと出て息苦しさは消えました。(肺胞の毛細血管で酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出します。異物と戦うために痰に異物を巻き込んで、どんどん体外に吐き出していきます。確かに痰が出ると息が楽になったのでしょうか。)

去年末、頂きました薬の包みの中にリバウンドに関する同意書を発見いたしましたので、お送り申し上げます。(当院の治療の一つ目は、当院に来る前に使ってきた免疫を抑える薬をまず止めさせることです。二つ目はその後生じる免疫の上昇による異物との戦いが激しくなるリバウンドという症状を乗り越えさせる事です。三つ目は、最後にアレルギーの場合は、異物である化学物質と共存できるべく自然後天的免疫寛容を起こすことです。この三つの免疫の働きの中で、一番患者さんが苦しむのは二つ目のリバウンド症状であります。このリバウンド症状の度合いはピンからキリまであります。そのピンキリの症状の度合いを綴ってもらったのが、おびたしい数の手記です。このリバウンドを

乗り越えなければ絶対に自然後天的免疫寛容は起こりません。つまり、一つ一つの化学物質と共存して、はじめてアレルギーは治るのです。アレルギーが完治するというのはどういう意味かについては、[ここ](#)を読んでください。）

煎じ薬なくなりましたのでお送り下さいますよう宜しくお願い申し上げます。  
(遠隔治療ができるようになったので、煎じ薬を送る事ができるのです。) 喘息発作は完治して頂きましたが、細菌、花粉による炎症が異常に悪化する体質は変わっておりませんので、息苦しさが発生しますが、頂いている煎じ薬を飲みますと痰が粘膜から剥離し、除去され血液中酸素濃度も93に戻ります。喘息発作以降、炎症度合が激しいです。(アレルギー性鼻炎は、喘息にならないために鼻の粘膜で異物である化学物質を捕まえて、かつ、鼻水とくしゃみで外部に排除する症状です。であるにもかかわらず、耳鼻科医はアレルギー性鼻炎の治療で鼻の粘膜の免疫の働きを抑えて化学物質をさらに奥深い気管支粘膜まで送り込み、喘息を起りやすくする準備をしているのです。鼻の粘膜で捕まえられない化学物質(PM2.5)はそのまま、後鼻腔に入り、さらに気管支へと入り込んで喘息が出やすくなってしまうのです。残念です。)

今日はここまでです 2015-4-21